

ランチョンセミナー 4 <オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社>

11月28日(日) 12:15~13:15 (第4会場 4階・市民ホール404)

輸血のオーダーリング・電子カルテ導入に伴う基礎知識

本山 史朗 (オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社)

平成15年の改正薬事法および血液新法により、安全かつ適正な輸血医療を推進するように医療機関の責務が明確化され、医療機関での輸血医療の質の向上が要求されることとなりました。また平成18年の診療報酬改定により、適正輸血の実施や輸血検査の24時間体制の構築等、医療機関における輸血管理体制を評価する輸血管理料が導入されました。このように、近年、輸血療法及び輸血検査を取り巻く環境に大きな変化が見られ、輸血業務の実施現場においても、これらの変化に対する取り組みが求められています。

安全かつ適正な輸血医療を推進していくためには、どのような取り組みが必要なのでしょうか。採血時の患者検体取り間違い、血液型判定や入力ミス、出庫時の製剤の取り間違い、血液製剤の持ち込み照合ミス、病棟や手術室での患者取り間違いや血液製剤の取り違いなど、日常のインシデント・アクシデントを防止して、安全性を確保する仕組みや体制の構築とその運用の重要性がますます増大してきております。

検査室に関わるインシデント・アクシデントの防止には、全自動輸血検査装置が貢献する部分は大きいと考えられていますが、ただ全自動機器を設置しただけでは輸血の安全性は確保出来ません。中央検査部システムとの連携はもちろんのこと、輸血オーダーリングシステムとの連携や、電子カルテとの連携といった、病院全体のシステムの中に組み込むことが必要であり、この事が安全な輸血検査や輸血療法の確立に結び付きます。しかしながら、システムの連携が複雑であるため、私たちが知っておかなければならない知識が多く、これらを知らなかったために思ったようなシステム構築が出来なかったという事例が多く発生しています。

本セミナーでは、このような事例が皆さまの施設で起きないようにするための事前知識として、事前にどのような事を知っておけばいいのか、知っておかなければならないのかをご紹介します。

- ① 輸血製剤のオーダーリングと、電子カルテの違い
- ② 輸血検査における検体検査オーダーリング構築の例と注意点
- ③ 同種血液製剤オーダーリング構築の例と注意点
- ④ 自己血貯血オーダーリング構築の例と注意点
- ⑤ 分画製剤オーダーリング構築の例と注意点
- ⑥ 電子カルテ導入時によくある落とし穴
- ⑦ システム化の前に

連絡先： オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 千代田ファーストビル
お客様サポートセンター TEL0120-03-6527